

ふるさと  
よもぎま  
「加茂の百年企業」  
その4



令和2年4月に父が他界し、相続に必要な書類に目を通してると大正11年(1922)に新潟縣南蒲原郡加茂町大字加茂639番地(現在の当店所在地)に転住の記載がありました。以前の住所は大字加茂1-177番地で現在の下河原橋左岸側の周辺と思われます。初代「周三」は西蒲原郡共和村(現在の新潟市西蒲区)の生まれで加茂町に転住し、二代目「米作」42歳の時に前述の現在の地に居を構えています。大正時代の町並みを知るよしもありませ

が、明治30年に北越鉄道が開通したことに伴い加茂駅が開設され、賑わいとともに人流も増えていたであろう現地に転住したのは、おそらく商売を始めるか、それまでの商売を拡張したいと望んだのではないかと推測するのが私の勝手な推測でこの年を創業元年と名乗ることにした次第です。初代なのか二代目からのか判りませんが、当店は昔「豆腐屋」だったそうです。幼い頃、友達の家遊びに行き、その家のお爺さんお婆さんに「何処の子ら？」

きも乃や

店主 保坂 裕一

と聞かれ「保坂です」と答えると「あゝ豆腐屋の子らけ」と言われ、「ボクの家は呉服屋です!」というやりとりを何度もしたことを思い出します。三代目の「藤七」の時代に、戦時中の統制経済で切符配給制度による配給所になったことから「加茂縞」をはじめとする実用衣料を取り扱うようになり、四代目「伸作」は「もしかあんにゃ」でしたが呉服問屋で修行し、「保坂呉服店」の看板を「きも乃の保坂」に

変更、五代目の私が平成2年のアーケード完成を機に「きも乃や」へ店名を変更して現在に至ります。ライフスタイルの変化や消費者の購入形態の変化等により小売業を取り巻く環境は激変しています。当店も事業継承が厳しい現状ではありますが、「加茂縞」のように細く長く、そしてお客様に「ありがとう」「おかげさまで」と言っていただけ商売の道をこれからも歩いていこうと思っています。



現存する古い戸籍簿

きも乃や／穀町9-5 TEL:0256(52)0631

いいともの



市内事業所の  
個性豊かな社長さんや  
店長さんなどの意外な交友関係をご紹介します。  
いつかあなたにも繋がるかも?

いいともバトン：No.35 登場の三野敏弘さん ➡ 涌井 陽さん



左／涌井 陽さん(43歳) 右／河内寛太郎さん(44歳)

いいとも No.36

「涌井金太郎商店」店主 涌井陽さんの「とものわ」は「有千代田ベーカリー」社長の河内寛太郎さんです。高校時代、友人同士の繋がりから自然と仲良くなったお二人。どんな高校生だったかは秘密だそうです(笑)。

高校卒業後はお互い別の道を歩みましたが、加茂に戻り家業を継いでから顔を合わせる機会が増えていったとか。和菓子とパン…一見ジャンルが違うように思えますがコラボ商品もたくさんあって、雑誌で紹介された人気の『あんバター』は期間限定で涌井さんのあんこを使っているそうです。

そんなお二人は今でも「良き仲間」で一緒に食事に行ったり、プライベートでも交流を続けています。

当商工会議所のオリジナル推奨品認定事業所でもある二つのお店。新商品開発やふるさと納税参加などエネルギーに動いています。これから、和と洋のどんなコラボレーションが生まれるか楽しみです!